

# 福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞  
TBSラジオ『メイ』のいきいきモーニング 取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定  
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一  
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局  
☎049・230・1111 (FAX 230・1112)

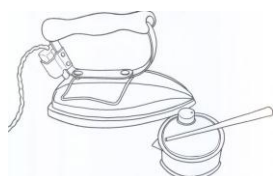
## ご家族の声

### 「母ってこんなに楽しい人だった？」

母は洋裁が得意で、私の洋服はほとんど手作りでした。子供の時はもちろん、青春時代には私が生地を買ってきて、「こんなデザインで作って」というと、すぐに作ってくれました。黒のロングスカートは、今は私の娘がはいています。

「福音の園」では落ち着いた生活ができ、笑顔が多くなり、「母ってこんなに楽しい人だった？」と思うことも度々です。父は、母に会いに行くことで、父自身が癒されるといいます。会いに行くと「あら、来たの！」と喜んでくれますが、帰るときは「またね。」とあつさりしています。スタッフに促されないと玄関まで送りにもきてくれません。「福音の園」が自分の家という思いがあるようです。

スタッフの方々も親切で、優しく、時には家族のように、時には友達のように接して下さり、感謝しております。(大阪 由美子)



## 動きたくなる環境づくり(生活リハビリ)を目指す

### 最高のリハビリメニュー

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳  
当園が掲げる二番目の基本方針は、「動きたくなる環境づくりに工夫し、生活リハビリを目指します」です。

身支度でも料理でも、自分でできることはなるべく自分でしてもらおうことが、認知症の高齢者にとって良い環境となります。日常生活の中の様々な行為はすべて、残存能力を引き出す最良のリハビリになる。これを「生活リハビリ」と言います。身体の機能回復だけを目的としたリハビリは単調な作業の繰り返しとなり、認知症の高齢者には何のためなのかわからない事が多いものです。

グループホームでは、ご利用者にできるだけ出番や役割を持つてもらおうようにしています。そして、スタッフとご利用者は「持ちつ持たれつ」の支え合いの関係になります。ご利用者に手伝ってもらう方が、実は手間と時間がかかりますが、ご利用者にとって脳の刺激にもなり、認知症の進行も穏やかになるからです。

至れり尽くせりの丸抱えの介護は一見ご利用者を大事にしているように見えますが、実は「何もかもしてもらって悪いね」と萎縮させ、居心地を悪くしている。介護スタッフに対してご利用者が「ありがとう」と言うのではなく、介護スタッフがご利用者に「ありがとう」と言うのがグループホームケアです。

グループホームでの食事が持つ意味は、栄養の補給だけではない。味覚を含めた五感を喜ばせる「おいしい食事作り」は、最高のリハビリメニュー

である。Yさんは、最愛の夫の死後、大型施設などで過ごし、開園を待ちわびるようになって引越してこられた。しばらくして、落ち着かれたと思いきや、食べさせてもらうだけでは申し訳ないからと、エプロンを着けて台所に立ち、手伝って下さるようになった。数週間後、「わたくし、下剤をのまなくても毎日お通じがあるようになりました！」と嬉しそうに報告して下さった。スタッフの手助けにより、可能な範囲で家事や趣味を楽しむという「生活リハビリ」中心の自立支援ケアが効果を発揮した実例の一つです。

## 入居申込者の声

### 明るい希望を感じて

先日は、ご多用の中、訪問見学をさせて頂き誠にありがとうございました。園芸療法活動の行事日でしたのに、時間を取って頂き、ご丁寧な説明ご案内、加えて一緒におやつまでご馳走になりましたこと、心より感謝申し上げます。

見学に先立ち、送って頂きました資料を拝読して伺いました。ホーム長様の包容力ある暖かさがホーム内に行き渡っており、入居者の皆様への優しいまなざしとお声掛け、家庭菜園と草花の栽培地域の方々との交流を拝見し、大変幸せな気持ちになり、明るい希望を感じて参りました。

つきましては、母の入居を希望し「入居申込書」を送らせて頂きます。後日、貴ホームの行事等に母と共に再訪問させて頂きたく思っております。

(W・H)

## 来訪歓迎

愛の家グループホーム 川越的場様  
グループホーム めぐみ若葉様

## 御礼

各種カルタ・木野目すみれ会様(川越市)